

# さんぼんまつ タイムス

のはら村おがわ通りさんぼんまつ左はいる  
でんわ☎のはら局8753 vvv.sanbonmatsu.



創業 40年 おまころベーカリー



## 祝40年 のはらみんな

## ありがとう

青山の古書店で白秋小唄集を見つけて雀躍したのは40年も昔のことです。赤いシルク地に金の箔押しで「白秋小唄集」とあり文庫サイズながら威厳があります。「のはらうた」はたちまち島田画伯の手でデザイン

ンされて世にできました。百万冊を超すロングセラーになり、小学校や中学校の教科書にも採用され、図書室でも引っぱりだこの人気です。子どもたちは一読たちまち詩人になって、かまきりたつすけ、もんしろちようこ

のほらみんなの詩に、あべ弘土さんが絵をつけて絵本にしてくれました。その名も『のはらうた絵本』。25人の詩

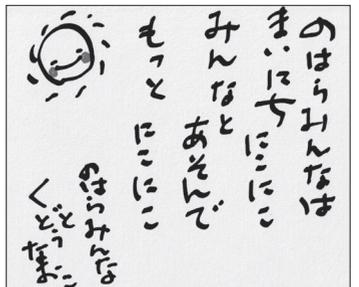
人が参加しています。あべさんは「のはらみんなのだいに」くんどうなおさんとなかよしです。「気に入ってもらえるかなあ」と、どきどきしながら絵をかいたそうです。

『のはらうた絵本』  
童話屋さんがつくりました



## とくべつニュース

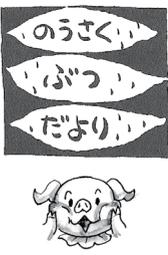
しゆく しゆうねん 祝40周年! 「のはらみんなのだいに」くんどうなおさんに、のはらむらのなかまがインタビューしました。



ただただ うれしいです!  
のはらみんなと これからも  
いっぱい あそんでいきます!



●びかびかのトマトが  
できさうです  
ことしはトマトの「つや」がたいへんよいです。まだ実はあお色で、赤くなるまでにもうすこしかかりますが、すでにびかびかしています。  
土をたがやす名人として知られる、みみずみつおさんとごらたけしさんによると「トマトがすきなむらびとが多いので、トマトがうまく育つように土の質を工夫している」そうです。



【編集後記】  
童話屋さんで「のはらうた」が出版されたのは1984年。40年たっても、のはらむらは平和で、みんなのんびりくらしています。この号外は、ふくろうげんぞう編集長のアシスタント、新米編集者のもみじくみこがつくりました。また近いうちにお会いしましょう!

さんぼんまつタイムス  
のはらむら開村 40周年号外  
2025年5月10日 発行  
編集人 ふくろうげんぞう  
漫画と絵 いけずみひろこ  
編集 のはらむら童話屋  
発行 のはらむら役場

このしんぶんは、「のはらうた 40周年」を記念してつくりました。



### えいごのうた

のはらむらも国際化してきました。詩人たちは英語でもうたうんですよ。

MY WISH by Haruka Dandelion	ねがいごと たんぽぽはるか
Longing, longing, longing, to see you, ... today again and again I send my fluff flying.	あいたくて あいたくて あいたくて あいたくて ... きょうも わたげを とぼします

『えいご・のはらうた A FIELD SING-A-LONG』より



加くください。... ます。あんなに人は、あまのがわあずさんです。のはらむらの天体望遠鏡はとくべつなので七夕のこの日、おりひめとひこぼしの出会いを見ておいわいできそうです。また、のはらむらですがたを見かけることの少ない、ながれぼしとしひこさんとも会えるかもしれません。みなさん、ふるってご参加ください。

### やくばからのおしらせ

きたる7月7日、のはらむら天文台にて「星をみるゆうべ」をかいさいします。

「さんぼんまつタイムス」です。1面には、詩人のうたをのせることになり、第1号で登場したのが、こねずみしゅんくんの「どんぐり」です。そこから、どんぐりうたが生まれて、詩集になりました。



## 森のニュース

●のはらむらの材料でこしらえたパン大好評



のはらむらの人気店のはらスープーで、おいしいパンが新発売！のはらむらでとれた小麦を、のはらむらの水車小屋でひいて、小麦粉をつくりました。あおぞら牧場でしぼったしんせん牛乳と、うみだてのたまごをつ

かっています。おいしいものが大すきなこぶたはなこさんは大よろこび！特大のサンドイッチをつくって、おはなばたけへピクニックに行くそうですよ。  
●山ぶどうのつるで編んだかご のはらむらで流行のきざし  
手芸がとくいなこりすすみえさんが、山ぶどうのつるで、すてきなかごを編みました。お買いものにも、絵をかくどうぐを入れるのにも、なにをするにもぴったりです。  
ふくろうげんどうさんが、このかごをたい

そう気に入って、こりすすみえさんにおねがいで、ゆずってもらいました。「ホウホウ、わしは のはらで読書をするための 本を入れて 持ちあるくぞ」とじまんしてあるいたものですから、のはらむらのみんなは、山ぶ

にんげん町の子どもにも知名度ばつぐん  
かまきりりゅうじ さん  
ふらつと出かけると、おれ、子どもに話しかけられるんだよ。「あつ、かまきりりゅうじだ。ぴかぴかのかま、きまつてるよ」つてな。



「のはらうた」は、「のはらみんなのだいにん」くどうなおこさんがのはらむらをさんぼにしていて、かぜみつるくんの言葉が「うた」のようだったので、「かきとめておこうか」「たのむぜ」というわけで、始まりました。  
では、童話屋さんで「のはらうた」の本ができたのは、どうしてでしょう。童話屋のたなかかずおさんによると、ある日、くどうさんと楽しくおはなししているうちに、絵本をつくろう！と盛り上がり、いけずみひろこさんが絵をかくて『こぶたはなこさんのおべんとう』の絵本ができたそうです。  
くどうさんとたなかさんはおまけが好きなので、絵本に入れる小さな新聞をつくることにしました。それがこの「さんぼんまつタイムス」です。1面には、詩人のうたをのせることになり、第1号で登場したのが、こねずみしゅんくんの「どんぐり」です。そこから、どんぐりうたが生まれて、詩集になりました。